

令和3年度 第7回掛川市総合計画審議会 議事概要

日 時	令和3年11月19日(水) 10:00～11:40
会 場	掛川市役所5階 全員協議会室

■出席者（敬称略）

No	氏 名	所属・役職等	出席 状況
1	日詰 一幸	国立大学法人 静岡大学 学長	出席
2	星之内 進	NPO 法人おひさまとまちづくり 理事長	欠席
3	小川 雅子	公益社団法人 大日本報徳社 主事	出席
4	金嶋 千明	静岡県危機管理部参事兼地震防災センター 所長	出席
5	鎌塚 優子	国立大学法人 静岡大学 教授	欠席
6	幸田 拓也	日本電気株式会社 PS ネットワーク事業推進本部 国内スマートシティグループ	出席
7	齊藤 奈津子	島田掛川信用金庫 地方創生室 副室長	出席
8	須藤 みやび	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	出席
9	垂門 涼子	ソフトバンク株式会社 東海 IoT エンジニアリング本部 東海 IoT 技術部 部長	欠席
10	長濱 裕作	NPO法人 かけがわランド・バンク コミュニティマネージャー	欠席
11	中村 陽子	人・農地プラン 委員	出席
12	増山 達也	有限責任監査法人トーマツ ディレクター	欠席
13	宮地 紘樹	医療法人社団 綾和会 掛川東病院 院長	出席
14	村上 文洋	株式会社 三菱総合研究所 主席研究員	欠席
15	守屋 輝年雄	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	出席
16	山本 たつ子	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	出席
17	山本 美鈴	株式会社 山本製作所 専務取締役	出席

発言者	発言内容
1 開 会	
2 会長あいさつ	
会長	<p>皆様おはようございます。本日はオンラインにて失礼いたします。</p> <p>前回は10月13日に審議会を開催し、総合計画本体の総論、基本計画、基本構想等について審議を行い、たくさんのご意見をいただきました。</p> <p>本日は、皆様からのご意見をもとにさらに改定案を作成しておりますので、そちらをご審議いただくとともに、これまでもご意見がありました人口フレームについて、非常に大事なことですので、本日は主にこの2つ、掛川市の将来人口について、そして前回10月13日にご意見をいただいた総合計画の中身について、もう一度皆様と確認、検討をしていきたいと考えております。</p> <p>最後までよろしくお願い申し上げます。</p>
2 市長あいさつ	
市長	<p>皆様おはようございます。</p> <p>大変お忙しいところ、当初予定にはなかった第7回総合計画審議会にご参加いただきありがとうございます。</p> <p>冒頭に、最近の話題ということで、いくつかお話をさせていただきます。</p> <p>大谷翔平選手がメジャーリーグのMVPに選ばれました。掛川とはあまり関係ないように思われていますが、掛川市の姉妹都市である岩手県奥州市は、大谷選手の出身地です。出身校は花巻東高校で、奥州市のお生まれです。私は先日、奥州市へ行って参りまして、そのことで奥州市は大変盛り上がっていました。</p> <p>それから、掛川的な話題で言えば、掛川市の公式LINEを登録している方にはご案内が届いているかと思いますが、「シュート」という漫画があります。20年くらい前になるかと思いますが、掛川市の掛川高校が登場して全国制覇を成し遂げるストーリーで、作者の大島司さんは大須賀の出身です。それが20何年ぶりに新作を来年公開するというので、これがまた掛川高校が舞台となり、神谷篤司というキャプテンが欧州で活躍をして掛川に戻ってきて、弱体化している掛川高校を立て直すというストーリーで、前作の続編のようになっており、掛川を舞台にストーリーが描かれているということが一昨日発表されました。来年はワールドカップの年ですので、まちおこしにつなげていきたいと考えております。</p> <p>それからもう1つ、将棋の藤井聡太竜王・四冠が、今日、王将戦の第5戦目があり、それに勝つと王将戦の挑戦者に決まります。王将戦は、これまで過去10数年間、掛川市で対局を開催しており、そちらも大いに期待しております。</p> <p>最後に、「掛川はサッカーのまちかもしれないし、将棋のまちかもしれないが、お茶のまちですよね」と言われるのですが、本日、全国茶品評会が開かれており、その結果発表が午後にあります。昨年も深蒸茶部門の産地賞を受賞しましたが、それが今年も獲れるかどうか、私どもとしてはすでに万歳をする準備をしていますが、その朗報を待ちたいところです。いろいろと結果待ちで、うれしいニュースも含めて楽しみにしているところです。</p> <p>さて、本日の総合計画審議会について、先ほど会長からお話がありましたが、予定のない審議会を開催させていただいた大きな理由は、人口フレームの変更ということがあります。これについては、これまでの審議会でも委員の皆様からご指摘を受けていたところで、これまでの総合計画では2040年に人口12万人を維持するという計画でございましたが、後ほど詳しい説明がありますが、11万人を目指していくことにしたいと思っています。現在の人口は約11万6千人ですので、若干縮小を目指す</p>

発言者	発言内容
	<p>いう形にはなりますが、放置しておけばもっと減る部分を、減少幅を和らげて、11万人を目指すという人口フレームに変更したいと考えております。これについて、皆様にわかりやすくご説明しご意見をいただきたいというのが、今回審議会を開いた大きな理由になります。</p> <p>総合計画の改定も大詰めに近づいてきておりますが、12月からはパブリックコメントも始まりますので、本日は人口フレームの問題、またその他の部分についても忌憚のないご意見をいただければと思います。</p> <p>本日もよろしく申し上げます。</p>
議事（1）掛川市の将来人口について	
会長	<p>それでは、さっそく議事に入ります。</p> <p>議事（1）「掛川市の将来人口について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	資料1 説明
会長	ただいま事務局から資料1について説明がありましたが、皆様からご意見はいかがでしょうか。
市長	<p>改めてこのようなシミュレーションをしてみますと、これまで掛川市が目標として掲げていた12万人というのは、この9パターンのいずれからも出てこず、非常に高すぎる目標であったと思っております。だからといって、今回、私どもが提案しましたパターンFの11万人についても簡単な目標ではないと認識しております。1.8という出生率も、これは内閣府が全国的な目標数値として掲げているものですが、全国より出生率が若干高い掛川市としても、1.64から1.80にするには0.2近く上げる必要があります。</p> <p>社会移動についても、コロナ以前の増加を描くということですが、何もせずコロナからの回復を待つということでは実現できません。移住政策などの施策をやっていかなければ達成できませんので簡単ではないと思っておりますが、絶対無理ではないと私は思っておりますので、その点を含めて皆様からご意見をいただきたいと思っております。</p>
委員	掛川市の現在の出生率が1.64ということですが、シミュレーション設定の(1)－①アについて、何もしない場合で出生率が1.74となっておりますが、何もしなくても2040年に出生率が1.64から1.74に上回るというのがよくわかりません。
企画政策部長	<p>出生率1.74については、国の社人研が推計した数値を用いております。都道府県あるいは市町村別に社人研が推計している数値があり、掛川市の推計として出されている1.74という数値を使っております。</p> <p>1.74となる背景は、具体的に何もしないということではなく、国として一定の少子化対策を進めていくということが前提にあります。</p>
委員	先ほど、子育て環境の良さをPRしたり、定住につながる住みやすさをPRしたりすることによってこの目標人口を達成するとのことでしたが、海外の家族も含めた移住の施策を国が考えているとのことですので、掛川市でも海外からも来てもらえるような魅力ある掛川をPRすると、さらに人口11万人が達成しやすくなると思っておりますので、そういうところも、施策の中に入れるよう検討いただければと思います。
企画政策部長	ご意見をいただきましたので、そのような心構えで事業を進めていきたいと思っております。
委員	人口の件に関して、出生率は1.80という中位推計、そして社会移動率は高位推計で捉えていることについて、実際の意味としてこのような選択をすることについて、私は適切だと思っております。市長からも話があったように、実現の可能性がないのであれば絵に描いた餅になってしまいますが、努力目標で達成できるものであれば、掛川市としての意

発言者	発言内容
	<p>思の表れとして、その指標を選択することは非常に良いことだと思います。何をもってしてもこの人口減少を止めることや、社会移動を起こすというのは当然ですが、施策など具体的に何をやるのか、掛川市として何をすればこの推計値のとおり人口減少を止められるかという中身が大事ですので、そのあたりを議論の中で深掘りしていければと思っています。</p>
委員	<p>私も、1.80 という出生率を実現するのはなかなか大変だとは思いますが、掛川市はいろいろな施策を積極的にやっていて、実際に他市町と比べても高い出生率を今も実現していますので、ぜひこちらの目標で自然増について取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>それから、社会移動につきまして、先ほどもお話ありましたが、内訳を見ていきますと、外国人の方が社会増減の原因になっているところもあり、掛川市の場合、掛川市職業安定所の統計によりますと、技能実習生の方も増えていて、定住者の方も増えているという特徴的なところがありました。そのため、実際に海外の方が定着しやすい環境が他市町と比べてあると思いますので、ぜひ、外国人の方が暮らしやすい環境づくりを施策として取り組んでいただきたいと思います。</p>
委員	<p>掛川市は新幹線の駅があり、近くに空港もありますので、公的な統計には出にくいかもしれませんが、関係人口として非常に魅力ある土地だと思います。関係人口の指標も何か見えると、そこから定住者につながったなど何かきっかけになるような指標になるのではないかと思います。</p>
市長	<p>海外の方については、ここ10年くらい、製造業などで多くの方が来ていました。一般的には、仕事がある間は日本にいて、コロナの影響で経済が悪化して仕事なくなると帰国するというのがこれまでのパターンだったと思いますが、最近は、仕事なくなっても、あるいは仕事なくなる前に定住するための家を建てるケースも、多くはありませんが少し見られます。また、遠州地域では、海外の方々不動産を取得するための専門の不動産業者も出てきているという話もあり、一度日本に来られた方々が、仕事の状況に変化があっても定住を続けていただけるよう、我々も取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>関係人口についても、皆様がおっしゃるとおり、掛川市に何らかの関わりをもっている方というのはかなり多いと思っています。先ほどのアニメ「シュート」の関係や、新茶マラソン、お城巡り、かけがわ茶エンナーレなどで掛川市を訪れたことがあるというケースもあると思います。そうしたことも含めると関係人口は多いと思いますので、その先の定住につながっていくように、取り組みや仕組みを考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>単発のイベントや観光だけではなく、行政も柔軟に色々な取り組みを行っているので、企業を含め、そうしたところに外からどんどん入ってきてもらい、それをきっかけとして定住につながれば良いと思います。</p>
企画政策部長	<p>本日も欠席の委員より、事前にご意見をいただいておりますので、事務局から紹介させていただきます。</p>
事務局	<p>人口シミュレーションについてご意見をいただいておりますので、紹介させていただきます。</p> <p>審議会でのコメントをふまえて、シミュレーションしていただきありがとうございます。出生率や社会増減の状況に応じて、掛川市の人口がどのように推移するかが定量的に把握することができ、施策検討の際の前提条件として活用できると思います。今後は、年齢構成別人口シミュレーションによって、保育施策、教育施策、高齢者施策など必要となる施策が変わっていきますので、年齢別人口増減の施策を考えていくことが必要です。また、社会増減については、国内の移動と海外の移動に分けて検討する必要があります。各</p>

発言者	発言内容
	<p>国での内政回帰やアジアから来る外国人労働者の動向に変化が生じる可能性がありますので、そのあたりをきっちり検証していく必要があります。</p> <p>また、関係人口につきましては、従来の関係人口や交流人口の考え方を変える必要があります。これは、関係人口というよりは、純粋な労働力ということで、今までのように、ふるさと納税など関心をもってくれている人を関係人口と想定するのではなく、これからの社会は住む場所と働く場所を分けて考えることができる社会になりますので、今後は、働き方や住み方が変わったことを踏まえて検討していく必要があります。</p> <p>また、将来人口の目標値については、目標値の細分化と、根拠となる施策をきちんと示す必要があります。</p> <p>最後に、これまでの発想から脱却して、課題に向き合い、解決策を市民と一緒に考えていくというメッセージが大切だと思います。</p>
会長	<p>いろいろと参考になる部分があるのではないかと思います。市としていかがでしょうか。</p>
企画政策部長	<p>将来人口のシミュレーションについて、具体的に踏み込んだご提案をいただきました。人口推計をした後に、年齢別人口の増減に必要となる施策や、ターゲットを絞るために年代的に推計をするとよいのご意見でした。市としても、例えば保育施設や教育施設など、この人口フレームを年代別に分析をしていくというのは非常に重要な観点という認識をしておりますので、今後、さまざまな施策の計画や協議に反映させていきたいと思っております。</p>
委員	<p>ふるさと納税について、掛川市でも行われているかと思いますが、その中で移住や定住につながる仕組みやプランがあれば良いと思いました。</p> <p>それから、前にシティプロモーション課と話をし、ホテルや道の駅などに掛川の魅力を伝えるようなものを置かせていただいたことがあったのですが、そういったものを置くのもよいと思います。</p> <p>また、外国人の方の言葉の問題は、会社や普段の生活の中でも発生していると聞いていますので、外国語のホームページ等わかりやすいものがあると便利だと思います。</p> <p>最後に、浜松市の人口が増えているというのは、やはり防波堤ができて、安全がある程度担保されたという話を聞いたことがありますので、掛川市として、防災に強い掛川、防災の中でも住み良い暮らしができる掛川、そういったところも売りにできると、さらに人口増加につながっていくのではないかと思います。</p>
会長	<p>具体的なご提案をいただきましたが、市からはいかがでしょうか。</p>
市長	<p>ふるさと納税につきまして、掛川市はがんばっており、昨年のふるさと納税の寄付金額は9億5千万円くらいでした。例年12月の申請が一番多いので、今年はこれから10億を突破できるかどうか1つのポイントとなります。今のところ、掛川市で人気が高い返礼品は、お茶といちごとメロンで、実は、お茶よりもいちごとメロンの方が多いのが実態です。「モノ」としての返礼品がたくさんあり、それが評価されているということではありますが、現在は返礼品のメニューの増加を考えている中で、同じ「モノ」を送るにしてももう少し掛川と関わりが深くなるようなことも考え、「野菜便」として毎月野菜が送られてくると毎月掛川のことを思い出してもらえると、といったこともやっています。また、体験型の返礼品、例えばお茶に関する体験ができたり、農家民宿に泊まれたりといった体験型のものや、クラウドファンディングなど掛川市の社会的な地域課題を解決するような事業に寄付金が充当されるといったことも考えております。こうしたメニューを増やしていく議論を重ねており、単なる「モノ」をもらえるという関係ではなく、もっと関わ</p>

発言者	発言内容
	<p>りを深くしてもらえるように取り組んでいるところであります。</p> <p>言語についてもいろいろな取り組みを行っています。定住につながるような話では、もっと多言語での情報発信を行う必要があります、例えば第5波のコロナの時には、一部の外国語での同報無線放送を入れましたが、いろいろな場面で多言語化していかなければいけないと思っております。</p>
危機管理部 部長	<p>防災の関係で移住・定住の促進の観点でご意見をいただきましたが、掛川市でも当然、地震、津波、風水害、土砂災害等さまざまな災害が考えられ、津波については、防潮堤の整備を進めるといった災害に強いまちづくりに取り組んでおります。土砂災害については、土砂災害警戒区域が県下で3番目に多いということもあり、ハード面の対策は予算が難しい状況ではありますが、取り組んでいるところであります。</p> <p>減災を進めることによって、今後も安心・安全なまちづくりという観点で掛川に人が住んでいただけるようになればと思っております。</p>
会長	<p>委員の皆様からいただいたご意見ですと、市で設定したパターンFでご了解いただいているものと思っておりますので、これをもとに人口推計の取り組みを進めていただければと思います。</p>
議事(2) 第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】改定案について	
会長	<p>議事(2)「第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】改定案について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	資料2・3 説明
委員	<p>42 ページ、市民の生涯学習の拠点づくりについて、生涯学習に参加している市民の割合として、「している」と答えた方が10%ということで、これは生涯学習宣言都市としては少し寂しいという感じがします。毎回データをとっているのであれば、過去の数字や推移を協議する必要があると思います。地区の役員のなり手不足など、地域としても課題があり、要因もこのあたりにあるのではないかと考えています。</p> <p>施策の方向「①生涯学習機会の充実」で、教育政策課と図書館が担当課となっておりますが、現状と課題には生涯学習協働推進課の活動内容も書いてあるので、担当課として生涯学習協働推進課も入れたほうが良いと思います。また、主な事業として、リカレント教育、放送大学、公民館活動となっておりますが、今は地域生涯学習センターの方が主体になっていきますので、そちらを先に挙げてもらえればと思います。</p> <p>それから、18ページの『「ひと」づくりの観点から』の「①『まち』づくりや『くらし』づくりの担い手づくり」のところ、人材について記述があり、(イ)のみ「人財」となっていますので、「財」と「材」で使い分けるのか、統一するべきかをもう一度見直していただきたいと思っています。</p>
会長	この件について、市としてはいかがでしょうか。
企画政策 部長	<p>まず、43 ページの生涯学習の件についてですが、委員のご指摘のとおり、縦割りの記述がやや見受けられますので、ご意見を参考に調整します。</p> <p>18 ページの人材の表記につきましては、担当課に確認します。</p>
協働環境 部長	<p>皆様ご承知のとおり、生涯学習運動というのは、市民それぞれが、生涯学習でさまざまなことを学び、自己を高め、その学びの成果をまちづくりに活かしていくということで認識されているかと思っています。</p> <p>総合計画の基本計画においては、42・43 ページで生涯学習の学びの機会の提供ということで、主に教育委員会が施策の方向を打ち出しております。その上で、まちづくりの担い手として活躍するというステップの観点においては、116・117 ページに示しております。</p>

発言者	発言内容
	<p>す。こちらで具体的に、市民の皆様がまちづくりに参加していくということで、特に「②地区まちづくり協議会の活性化と担い手の育成」においては、地区のさまざまな活動に生涯学習を行って自己を高め、市民の皆様が担い手として参画していく、そのために必要なひとづくりもあわせて行っていくとうことを示しています。ひとづくりの観点については、こちらのページで設定しておりますので、生涯学習協働推進課と教育委員会で少し調整がとれていないところがありますが、このような形で学びの機会の提供と、担い手づくり・ひとづくりとして、それぞれに記載をさせていただいております。</p>
委員	<p>42 ページの現状と課題に、「地域生涯学習センターや公民館では、各種講座や教室を開催し」とあり、地域生涯学習センターについても書かれているので、施策の方向の部分でも地域生涯学習センターについて記述した方がいいと思いました。それから、生涯学習に参加している市民の割合などもこちらにも書いてありますので、若干そのあたりが欠けている感じがしました。</p>
会長	<p>その整合性について、もう一度ご検討ください。</p>
委員	<p>68 ページの3-(3)「美しい森林や海岸等の保全と活用の推進」のところで、現状と課題では、森や海岸の活用において、経済や産業にも関わってくることに書かれています。しかし、森は命の水の元であって、現状と課題の中に「水源の涵養」という言葉は1つ入っているのですが、掛川市はやはり川上から川下までであるまちで、産業だけでなく、きれいな水の確保や、防災においても、森を守ることは非常に大切なことだと思います。そういう意味で、環境教育や森林教育につなげていくような文言がこの中にあるのも良いと思います。70 ページの「清流が流れ」というところに関わってくると思いますが、この文章を読んだだけでは、そのあたりがピンときません。活用することについては記述がありますが、大切さや啓蒙、教育についてはつながってこないのでもう少し文章表現を考えていただければと思います。</p> <p>SDGs の観点からも、遠くから物を運んでくるのかということに関係してくると思いますし、今必要なことだと思いますので、そのあたりまでつながるような文章表現に変えていただけたらと思います。</p>
企画政策部長	<p>ご意見をいただきましたので、庁内で調整させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>前回、女性が活躍できる社会という考え方について、横串を入れて取り入れていただきたいという意見がたくさん出ましたが、それについて、いろいろな箇所でも反映されていて良いと思います。</p> <p>それから先ほど、人口を増やしていく上で、特に社会動態の増加において、外国人の話がありましたが、外国人の方が抱えている問題は言葉や生活習慣の問題が多く、そこをどのようにして馴染んでもらうかという働きかけが自治体として求められています。この件については、戦略の柱7にも具体的に盛り込んでありますし、実際に実行してくださっているので定住も増えており、このあたりも具体的ですばらしいと思いますので、ぜひこういった方法で進めさせていただきたいです。</p>
委員	<p>横串という形で各課が連結する中での目標や施策がすばらしいと思いました。</p> <p>全体的なコメントになりますが、成果目標やKPIの設定、各事業などのつながりのところで、いくつかつながっていない印象を受けるものがありました。これから細部に落とし込むのかもしれませんが、成果指標などのつながりが薄い部分については、見直していく必要があるのではないかと思います。</p>

発言者	発言内容
会長	施策の方向、成果指標のつながりについてご意見をいただきましたが、市からはいかがでしょうか。
企画政策部長	成果指標に関しましては、的確に施策の方向を表しているかどうかについて、時間をとって検証していきたいと思います。具体的な箇所があれば、またお知らせいただきたいと思います。
委員	いくつかありますので、改めてお知らせします。 各課が同じ目標で進むことはすばらしいことだと思いますが、それぞれの担当者が自分のゴールがどこなのかという落とし込みが必要だと思いますので、ご確認くださいねと思います。
委員	91 ページ「⑦流域治水対策を踏まえた『掛川市総合治水計画』の推進」のところで、昨今、さまざまな技術が進展していく中ですばらしい着眼点だと思います。国との動きもある中でしっかりと書かれておりすばらしいと思います。 今回この部分は河川のページで書かれていますが、実際に治水を含めて流域で考えた場合には、氾濫した際の道路の冠水やアンダーパスの冠水などの形で、市民の災害時のリスクがあると思います。そのあたりは、一部センサーをつけてリモート監視している箇所があるとは思いますが、ほかの項目にあるような3D都市モデルやデータ連携がある中で、河川だけでなく道路やアンダーパスなどについても、計画や情報連携などでご検討いただくと、まち全体の安全という意味では良いのではないかと思います。
市長	91 ページの「⑦流域治水」に絡めて、道路冠水など氾濫した場合の対応についてもしっかりと進める必要があるということですが、おっしゃるとおり、このページは、そうならないようにということが書いてありますが、冠水しやすい場所というのは毎回決まっております、そういった所については水位計を設置するようにしているので、そこはしっかりと連携していきたいと思っております。
都市建設部長	流域治水の考え方において、今の雨の降り方を考えると、すべてを川に収めるというのは不可能だという考えがありますので、逃げていただくという考え方も流域治水では考えております。道路冠水などが起こりそうな場所については、事前に市民の皆様にごどのように情報を伝達するかをしっかりと考えて、これから対策をたてていきたいと考えております。
委員	ハザードマップだけでは安全な避難ルートがわかりにくいなど、情報についても市民や地域防災組織の方々の理解力や地域知識のばらつきもあるかとは思いますが、しかし、情報自体が各個人別に届けられる時代になっていますので、市全域であるとか、ある一部分の氾濫している河川だけではなく、今自分が住んでいるまちの危険な箇所を事前に分かっていたら、どのようなルートで逃げなければいけないのか、このあたりを防災教育含めて総合的に進めていくと、いざという時の行動がとりやすいのではないかと思います。流域治水であふれた時、水を流す時に、住民の皆様や地域防災組織の方々とコミュニケーションをとり、事前に共通理解をとっておくと良いと思います。「SNS等」という記載があるように、その地域の方にしっかりと情報を届けるということに取り組まれると良いと思います。 もう1つ、期待としてはテクノロジーを使えますので、外国人や障がいをお持ちで音声では認識できない方などについて、さまざまな手段を使って安全な情報を届けるということもあわせてご検討いただきたいです。
会長	有益なご指摘、ご意見をいただき、ありがとうございます。
委員	88 ページ、6-(1)の現状と課題に、「外国人の防災対策の推進が必要」と書かれお

発言者	発言内容
	<p>り、89 ページ「③共助による地域防災力の向上」には、防災リーダーの養成とあります。ニュースで外国人の防災リーダーの育成が行われたというのを見ましたが、外国人の方はSNSなど横のつながりというのが強いと思いますので、そこをうまく利用して、外国人のリーダーを作って、リーダーにSNSを使って母国語で発信していただき情報をさまざまところに広めてもらい、もし何かあった場合に行動していただく、そういったことも必要ではないかと思いました。</p>
市長	<p>外国人の防災リーダーの件については良いアイデアだと思いますので、取り組みを進めたいと思います。</p> <p>今回のワクチン接種についても、当初は外国人の接種率が低くなるのではないかと懸念があったため、何か対策をとということで、職場や国際交流センターにお願いして、外国人の中のキーパーソンのなるような方、影響のある方にご協力いただいた結果、日本人よりは若干低いのですが、遜色ないレベルまで接種ができました。市としても86%の接種率とかなり高い数値を出しましたので、これを良い教訓として、防災面でも考えていきたいと思っております。</p>
委員	<p>88 ページの6-(1)から、災害に強い安心で安全な暮らしを支える基盤を整えたまちということが記載されておりますが、掛川市は県内市町の中でも防災について非常に一生懸命取り組んでいますが、減災効果が市民の方々に伝わっていないのではないかと思います、そのあたりを加味したほうがいいのではないかと前回の審議会で意見を言わせていただきました。今回いただいた資料では、担当課がいろいろと書き込んであり、非常に良いと思っております。</p> <p>91 ページ「④橋梁耐震化の推進」については、橋が老朽化し、実際に橋が倒れてしまうとそこから先に行けなくなり、助けに行くこともできなくなります。社会インフラは非常に重要ですので、落橋防止策が総合計画に加筆されたことはとても良いことだと思います。</p> <p>106 ページの左下のグラフでは、「交通アクセスの便がよくないと思っている市民」の割合が少し上がっている中で、幹線道路の整備を重点においたのは非常にありがたいことだと思います。</p> <p>防災関係について、内容がかなり充実してきたと思います。</p> <p>それから、今回新たに加えられた122 ページ以降のDX関係のところですが、それぞれの施策ごとにDXに関係していることがあると思いますが、1つにまとめて横串を刺していて、横断的に一目瞭然にまとまっていてすごくわかりやすかったので、この取りまとめ方はとてもよかったですと思います。現状と課題の中にある、移動と交通に関する最適化、福祉・医療・健康・子育て等における連携、激甚化する災害に対応するために命を守る情報提供は、まちの情報インフラであり早期に進めていく必要があると思います。この3本柱を早期に進めるのは非常に重要なことですので、ぜひ進めていただきたいと思っております。</p> <p>123 ページの「⑤安全・安心なまちの推進」で、3次元データを活用し、災害に関するシミュレーションを行うということで、施策もいろいろ出ていますので、ぜひ進めていただきたいと思っております。静岡県も去年から、この3次元点群データを利用し、防災関係の啓発を行い、災害を自分のこととしてリアルに感じてもらうということを行っていますので、県と市が一緒になって進められるといいと思います。</p> <p>それから、浜松市が防災対策を進めて企業誘致や人口増加につながったということで、掛川市も今までの防災の取り組みや減災方法などを「見える化」してわかりやすく、市民だけでなく市外の方にもPRすることで、外から企業が入り、そこで働く人が増</p>

発言者	発言内容
	<p>えることも考えられますので、そのあたりもデジタルデータを活用して進めていけば良いのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>防災のことについてご意見をいただきましたが、3次元点群データの活用は、この先もっともっと進めていきたいと思っております。掛川駅から掛川城周辺は、点群データがかなり取れていて、そのデータがありますので、来月には自動運転の実証実験を行うという流れになっています。これはご指摘のとおり、防災面でも当然活用できる分野で、熱海の土砂災害の時も、点群データを利用してどのように土砂が動いたかということに活用されたと聞きました。掛川市は土砂災害の危険個所が県内でもかなり多いので、3次元点群データを活用し、土砂の動きなどを把握できるようになれば、住民に伝えることもでき、早めの非難が可能になると思いますので、そちらも進めていきたいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>3次元点群データは、防災面だけでなく、観光面も含めて活用の方法がありますので、特にDX化ということでもうまく利用していただきたいと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>76 ページ以降、産業振興について盛りだくさんの基本計画が書かれていて、これだけの施策をきちんと推進できると、これからの掛川の産業振興が非常に楽しみです。産業振興で成功している自治体か否かを見ると、官で行う産業振興のしくみと民間が行っているしくみがうまく連携がとれている自治体の事業というのは、県外や海外に出て注目されるような事業になっています。掛川市で地域の産業育成というのは、自治体や商工会議所も含めて、官が行う事業推進が強いように感じています。官民連携で、個別の企業で注目をあびるような事業を作り出していくという取り組みをする必要があります、していないのであれば、今回の施策の中にそれを盛り込む必要があると思えます。</p>
<p>産業経済 部長</p>	<p>官民連携につきましては、市内 1,143 企業に対しまして、御用聞きの戸別訪問をしております。コロナ禍は訪問ができませんでしたので、現在は電話にて要望をお伺いしております。</p>
<p>委員</p>	<p>取り組みについては大変努力されているということがわかりました。</p> <p>私が注目したいのは、コロナだからということではなく、これから掛川市が産業のまちとしても成長していくために大事なことは、地域の事業をどう創出していくかということや、既存のお茶農家などをどういった軸で成長させていくかという視点が、基本計画の中にもあるべきだと思っております。そこは人材育成や自治体としての取り組み以外に官民の中で新たな事業創出、視点はおそらくデジタル化、DXと書かれていますので、どう推進していくかということになっていくと思えます。そこについては非常に重要な部分なので、推進するのが官のみではなくて、誰かがリーダーシップをずっと取り続けて継続的に推進していかないと事業はできません。新たな事業を創出するしくみのようなものが、掛川市でももう少し力をもってできるのであれば、非常に望ましいと思えました。基本計画の中に今から新たに施策として盛り込むのは時間的に難しいと思えますので、今後、何かできることがあればご協力したいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>産業について議論していただいておりますが、掛川市が行っている部分や、商工会議所と協力して行っている部分とがあるかと思えます。創業支援セミナーや、最近創設されたSDGsプラットフォーム、ここでは地域課題と企業を結び付ける取り組みを行っております。</p> <p>また、先ほど市内企業の御用聞きをしてどのようなニーズがあるかを企業に聞いているという話がありましたが、その中で、事業後継の話が多く出てきます。後継者がいない、これは農業だけでなくさまざまな分野で言われていることで、特に中小企業においてもこの先どのように事業を続けていくのかの判断がつかないという悩みを多く持ってお</p>

発言者	発言内容
	<p>られます。そういったところで、地元の金融機関などでも、敵対的なM&Aではなく、円満な事業承継につながるようなM&Aの仲立ちが行われていて、それによって、持っている技術や従業員の雇用も守られますし、またそれが別の会社に承継されることによって、新たなイノベーションにつながるというようなことも言われておりますので、市としてもこうした動きを応援していきたいと思っております。</p>
委員	<p>123 ページ「③繋がるまちの推進」について、非常にすばらしい取り組みだと思います。私も、スマートシティでさまざまな市町と取り組みをしている中で、「繋がるまちの推進」のような活動が非常に重要だと思っています。例えば、⑤にあるように3次元データのシミュレーションの活用であるとか、124 ページに⑦にあるオープンデータの推進であるとか、デジタルデータを地図に絡めていけると、市民も非常にわかりやすいと思います。例えば、他市の事例として、こどもの通学の軌跡とまちの中の工事箇所や危険な箇所を重ね合わせて、PTAの方や保護者の方が通学時に立って見守っている場所が適切なのかどうか検証していたり、交通事故のヒヤリ・ハットとして、ドライブレコーダーや交通事故の情報を重ね合わせて、この交差点が危ないというのを理解した上で交通安全教育やドライバーへの周知を行っていたりします。必ずしもテクノロジーやITだけではなく、そこで獲れたデータを見える形にして、コミュニティや勉強会などで使っていくことがとても重要になってくると思います。この③のところは非常に重要なポイントになっていきますので、ぜひ③の素材として⑤の3次元データのシミュレーションであるとか、⑦のオープンデータの推進などと連携して進めていただければ良いと思います。</p>
会長	<p>皆様ありがとうございました。 他にもご意見・ご提案等ございましたら、ぜひ事務局へお知らせください。 以上をもちまして、本日の議事は終了といたします。</p>
市長	<p>長時間にわたり、貴重なご意見を賜りありがとうございました。 人口フレームにつきましては、ご賛同をいただきましたので、私どもとしては、かなり努力を要する目標ではありますが、それに向かって各種施策を講じていきたいと思っております。 全体的な総合計画を整えるということに関しても、生涯学習、森林、防災など各分野にわたりまして、さまざまなご意見をいただきました。これらを提案としてまとめて、来月にパブリックコメント、そして年明けに総合計画審議会、そして議会の手続きと進めてまいります。 また、お気づきの点ありましたら、引き続きご意見を賜りたいと思います。 本日はありがとうございました。</p>